



国旗の青は青空を、黄色は小麦畑の色を表しています

Добрий день!(ドブリ・デーニ：ウクライナ語で「こんにちは」の意味です)

はじめまして。私は現在、UNFPA ウクライナに、国連ボランティア、Specialist on Local Development and Reproductive Health(地方開発とリプロダクティブヘルス専門家)として活動しております、市野紗登美と申します。こちらに赴任する以前は、青年海外協力隊・村落開発普及員として、マダガスカルの子村部で2年間、病気の予防啓発活動を行っていました。

ウクライナに赴任したのは、2011年の6月ですが、早くも3ヵ月半が経ってしまいました。本当はもう少し早く、皆様に様子をお伝えするつもりだったのですが、こんなにも遅くなってしまったことをまずはお詫びいたします。

今回は第1号ということもありますので、簡単なウクライナの概要と、配属先の活動、そして私のこれまでの活動をお知らせできればと思います。

1.ウクライナの概要

ウクライナと聞くと、皆さんがまずはじめに思い浮かべるのが、おそらくチェルノブイリではないでしょうか？日本での原発事故が起きてからというもの、チェルノブイリの名前をニュースなどで聞く機会も増えましたが、その他にウクライナと聞いて皆さんがイメージするものはあるでしょうか？



ウクライナは東でロシア連邦、南で黒海、西でハンガリー、ポーランド、スロバキア、ルーマニア、モルドバ、北でベラルーシに接しており、クリミア半島にはクリミア自治共和国があります。人口は約4,540万人(2010年)と、日本のおよそ1/3ですが、広大な国土を持ち、ヨーロッパの穀倉地帯としても知られています。1991年のソ連崩壊とともに独立国家となりましたが、2004年のオレンジ革命に代表されるように、政治状況は不安定な印象を受けます。

公用語はウクライナ語ですが、首都キエフやウクライナ東部では、ロシア語も十分に通じます。ですので、私はこちらに赴任してからはロシア語を勉強しています。私の住んでいる首都キエフは、大抵のものがそろっており、それなりの不便もありますが、ここに来る以前に、水道はなし、電気は不安定、トイレは外、の生活を2年間過ごしてきた私にとっては、電気が安定しており、夜中でも家の中にあるトイレにいつでも行けて、毎日温かなシャワーを浴びることのできる生活は、まさに天国です。来年6月には、ポーランドとの欧州サッカー選手権2012の共催が予定されているため、現在キエフではその準備が急ピッチで進められています。

しかしながら、大都市が発展していく一方で、村落部での生活は取り残されたままです。貧困や不十分なインフラ整備、地方政府が十分な力を持たないといったことが原因で、地方の開発はあまり進んでいません。

2.配属先の概要

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、UNFPAは

- (1) 人口と開発 (Population and Development)
- (2) 性と生殖に関する健康/権利 (Reproductive Health/Rights)
- (3) ジェンダーの平等 (Gender Equality)



7月に行われた、「70億人の世界」アクションに関するプレスリリースの様子。ウクライナでは、UNDPとメディア機関と連携し、ビデオコンテストが行われます。

という3つの重点領域があり、配属先の国連人口基金ウクライナ(UNFPA Ukraine)もこれらの領域を中心に活動しています。

ウクライナで特に大きな課題となるのが、リプロダクティブヘルス分野です。これは、今後のお便りで詳しく取り上げる予定ですが、ウクライナのHIV感染率はヨーロッパの中でも最も高く、一刻も早い対策が必要とされるためです。また、人口分野でも、現在ウクライナは日本と同じように少子高齢化問題が進んでおり、こちらも早急な対策が望まれています。

UNFPA ウクライナでは、来年2012年より第二次カントリープログラムが始まるため、現在はその準備に追われています。

3. 業務内容

さて、私は「地方開発とリプロダクティブヘルスの専門家」という肩書きはいただいておりますが、これまでのところ、リプロダクティブヘルス分野に限らず、様々な業務に関わっています。赴任してから主に関わった業務を挙げますと、

(1)来年から始まるカントリープログラム(事業計画のようなもの)作成補助：UNFPAでは、事業の計画を作り、計画の目標や指標を示した国別プログラムを策定します。既に設定された分野ごとの目標に対し、どのような指標が必要か、その指標を達成するにはどのような活動が見込まれ、その活動がどのように目標に反映されるかなど、同僚たちと会議をしながら進めています。

(2)プロジェクトサイト州の視察・調査票作成・フォローアップ：来年から始まるカントリープログラムで対象となる4つの州のうち、1つの州に視察に行き、現地の医療現場の様子を見たり、調査票を作成し、今後どのような活動を行っていくべきかなど、現地保健当局とのやりとりを行っています。

(3)他の援助機関とのネットワーク作り：これはUNFPA全体というより、私個人で動いている部分が多いですが、今現在ウクライナで援助活動を行っている他の団体が、UNFPAの重点領域分野でどのような活動を行っているのかを、直接担当者にお会いして、勉強させていただく機会を作っています。主にUN機関、USAID、青少年活動NGOの方が多いです。

本当は、(首都以外の)プロジェクトサイトで働くNGOの方や医療現場の方ともお話ししたいのですが、やはり地方ですと英語を話せる方がおらず、私がロシア語を話せないため、こうした機会が限られてしまっているのがとても残念です。

(4)プロジェクトプロポーザル作成：これは最近着手したばかりなのですが、来年から始まるカントリープログラムに見合ったプロジェクトのプロポーザルを作成しています。とは言っても、まだ現場の様子もあまり分からず、こうした正式なプロポーザルを作成することも初めてのことで、手探りの状態ですが、関連するUNDPのプロジェクトマネージャーに会って様々なアドバイスをもらいつつ、少しずつ書き進めている状態です。(採用されるかは分かりませんが…)

これ以外にも、機会があれば、省庁での会議や、プロジェクトのミーティングなどにも連れて行っていただいておりますが、やはりなんといってもネックになるのが、言葉の壁です。オフィス内の通常の業務では、英語を使っていますが、省庁での会議はウクライナ語もしくはロシア語がメインになります(今の私ですと、どちらが使われているのか、見分けすらつかない状態です)、UNFPAのスタッフも、私の通訳ばかりしているわけにもいきませんから、こうした会議に連れて行ってもらっても、役立たずになってしまうのが辛いところです。



視察に行く途中で見た、一面に広がるひまわり畑。他にも、のんびりの草を食む家畜など、地方ではゆったりとした生活が見られます。



ですので、目下の課題はロシア語ですね。ロシア語は本当に難しい言語ですが、協力隊時代に学んだことのひとつに、「同じ言語を話し、同じものを食べ、同じ目線で生活をすることの重要性」があります。今はキエフのUNFPAのオフィスで仕事をする事が多く、現場になかなか行けない事がもどかしいのですが、言葉が少しでもできるようになれば、来年からプロジェクトが本格的にスタートする時に現場に行って必ず役に立つ!!と信じて、ロシア語の勉強も頑張っています。

UNFPAのオフィスにて。一人一部屋という贅沢なつくりですが、同僚とのコミュニケーションが減ってしまうのが悩みです。

キエフでは、9月から秋の気配がぐっと深まり、10月に入るとかなり気温が下がってきました。道行く人は皆コートを着ていますし、私も夜中ロシア語の勉強をするときなどはブランケットを体に巻いています。本格的な冬を迎えると、どうしても活動が制限されてしまうと聞いていますので、今のうちに進められる外部との作業は進めておきたいと思います。



寒い日にはあたたかなボルシチがうれしいですね。
実は、ボルシチの本家はウクライナなんですよ。

70億人の世界へのカウントダウンも、いよいよ大詰めを迎えてきました。世界中にいる、70億人の人々…70億分の1という、存在は小さく感じるかもしれませんが、この歴史的瞬間に「国連人口基金」で仕事ができているのは、とても貴重なことですし、この世界に生きる一人として、自分にできる限りのことを精一杯やりたいと思います。次回のお便りまでに、また少し前進した様子をお伝えできるように頑張ります。

2011年10月

市野紗登美

United Nations Population Fund (UNFPA) Ukraine

Specialist on Local Development and Reproductive Health